

平成28年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉桐の花保育園

評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	教育課程、保育所保育指針を踏まえた保育計画を作成することの意識が高い。自分の保育と評価・反省を行い、次の保育へと繋げられるよう、研修や振り返りを重ね、研鑽する。
II 保育の在り方 幼児への対応	子ども一人ひとりの姿をありのままに受け入れ、話をよく聴き、寄り添いながら信頼関係を築いている。情報の共有や適切な対応を心掛け、保護者との連携をとりながら、子どもを中心とした在り方、対応ができるよう努める。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	社会人としてのマナー、人的環境としての振る舞いや挨拶などについての意識を高く持つことができている。専門知識や技能を身につけ、高められるよう努力し、職員間で研鑽する。
IV 保護者への対応・守秘義務	守秘義務の遵守についての意識は高い。保護者との連絡・対応については職員間で連携を図り、簡潔に要領よく伝えたり、話をよく聞いたりするよう努める。保育参観やクラス懇談会などの機会を利用し、園生活に置いての共通理解を得られるようにする。
V 地域の自然や社会とのかかわり	ジャガイモ掘りや地域のお祭り、新幹線車両基地見学などを通して地域交流を図っている。保幼小連絡会の報告をしたり、研修会に参加したりすることで、小学校への進学や連携に対する意識が園全体として高まった。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	外部講師による研修や法人内での研修などを通して、アレルギー、子どもの発達、安心・安全に関する危機管理等についての関心は深まっている。自己課題をもって計画や反省を行ったり、研修の内容や課題を事前確認したりし、自分なりの考えを持って取り組むことができるように努める。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	健康に過ごすための配慮や環境づくりにおいて、関心を高くもっている。どの子どもに誰が関わっても同じ対応、適切な言葉かけができるよう、保育者同士の連携や協力する力を向上させ、園全体で共通理解を持つことができるようにする。
VIII 地域における子育て支援	毎月2回の公開保育にて園を開放している。クラスで一緒に遊んだり、わらべうたや手作り遊具の紹介の場を設けたりし、利用者に親しみを感じてもらえるような関わりをもつよう心がけている。育児相談や情報交換がしやすいような、あたたかい雰囲気作りに努める。